

令和7年度 3学期

府中市標準学力調査
考察資料

小学校

調査目的

●府中市内の小学校児童の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

調査内容

●調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成した。

調査対象

- 府中市内の小学校の1・2・3・4・5・6年生の児童
- 調査対象教科は、国語・算数

◆用語について

正答率

各設問の正答率は、その設問に正答した児童・生徒の割合を示したものである。また、教科総合、領域別、観点別等の正答率は、対象設問中の正答率の平均を表す。

標準スコア

全国平均の正答率を50とした時の換算値。

目標値（目標準拠評価方式のみ）

学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合。

「思考・判断・表現」が良好である

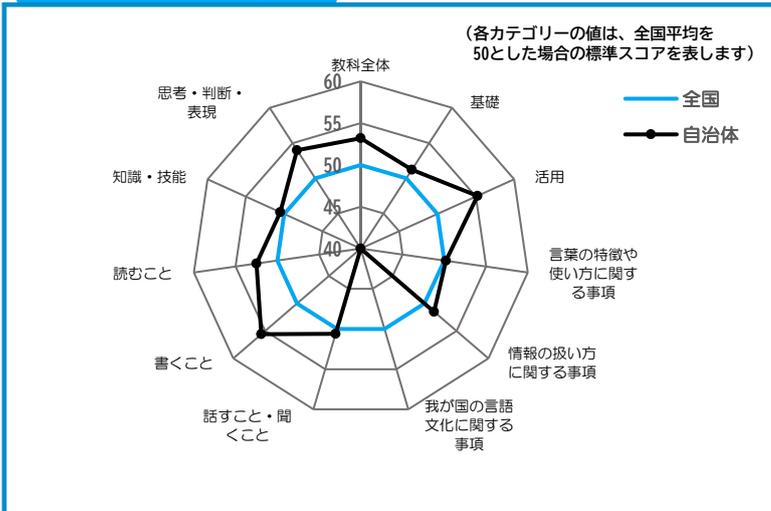
正答率一覧

		目標値	自治体	(%)
教科全体		74.1	81.9	
基礎		82.0	86.7	
活用		59.4	72.9	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	88.1	93.2	
	情報の扱い方に関する事項	70.0	81.7	
	我が国の言語文化に関する事項			
	話すこと・聞くこと	78.3	80.9	
観点別	書くこと	63.0	77.6	
	読むこと	63.3	71.0	
	知識・技能	86.1	91.9	
	思考・判断・表現	66.4	75.5	

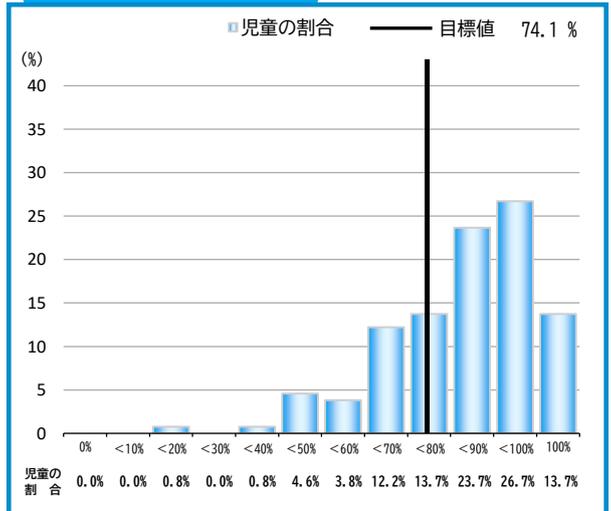
分析 コメント

- 小1国語は、教科全体の正答率が81.9%
- で、目標値を7.8ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に達している。中でも、「思考・判
- 断・表現」が75.5%で、目標値を9.1ポイ
- ント上回った。

カテゴリ間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

はなしをききとる

大問1(2)

<ねらい> 話し手が知らせたいことを落とさないように聞いている。

目標値 85.0% 正答率 77.9% 差 ▲ 7.1 ポイント

指導のポイント 聞く活動と話す活動は連動しており、自分の意見を上手にまとめて話すことができるようになると、他人が話している内容も的確に聞き取ることができるようになる。初めは、「なぜ?」「どうして?」「いつ?」「誰が?」「どうやって?」などというように、教師が話の内容を引き出していくことが必要である。今後も、学校生活におけるさまざまな場面を通して、話す力・聞く力を伸ばしていきたい。

ものがたりをよみとる

大問4(2)

<ねらい> 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。

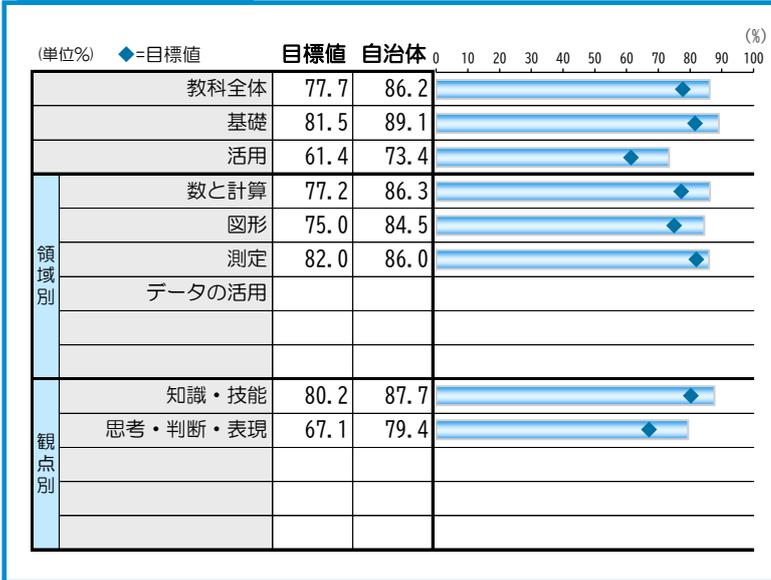
目標値 60.0% 正答率 56.5% 差 ▲ 3.5 ポイント

指導のポイント 作品の中で場面の様子や登場人物の言動などを読み取る問題である。こうした問題を考える際に、特に低学年では、その場の状況を想像できるかどうかのポイントとなる。普段の授業の中で、児童が作品を読む際、場面の様子や登場人物の言動を具体的に思い浮かべられるように、場面の様子や登場人物の言動と登場人物の気持ちに関連させて考えさせるなどの、さまざまな工夫をした授業をしていきたい。まずは作品全体について理解させることを意識して、指導していく必要がある。

小1 算数

「思考・判断・表現」が良好である

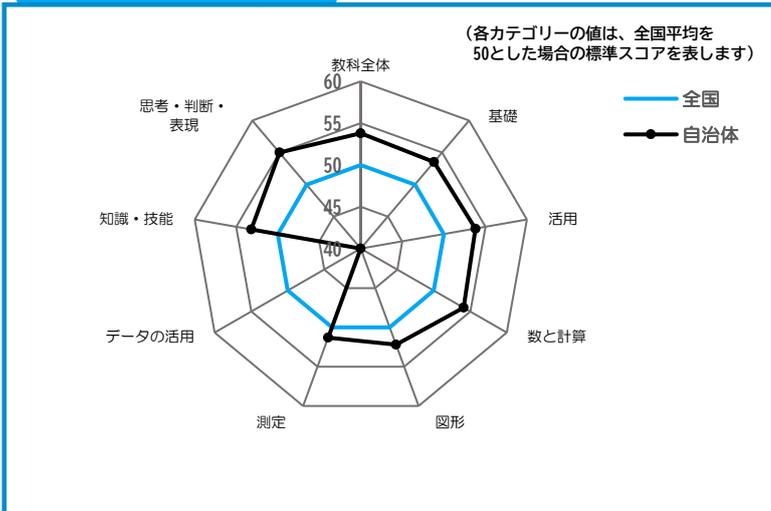
正答率一覧



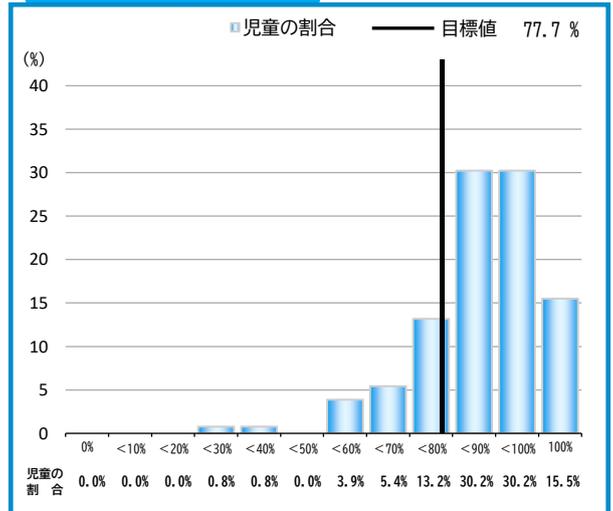
分析 コメント

- 小1算数は、教科全体の正答率が86.2%
- で、目標値を8.5ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に達している。中でも、「思考・判
- 断・表現」が79.4%で、目標値を12.3ポイ
- ント上回った。

カテゴリ間比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

たしざん

大問4

<ねらい> 10のまとまりをつかって、繰り上がりのある加法の計算のしかたを考えている。

目標値 60.0% 正答率 59.7% 差 ▲ 0.3 ポイント

指導のポイント 計算技能に習熟させることも大切だが、10のまとまりを用いて計算の仕方をつくり出す活動も、これからの学習にとって非常に重要である。今後も、これまで学習してきた計算の仕方や、10のまとまりのよさを活用し、加法や減法の計算の仕方をつくり出せるように指導することが大切である。

20までのかず

大問1(3)

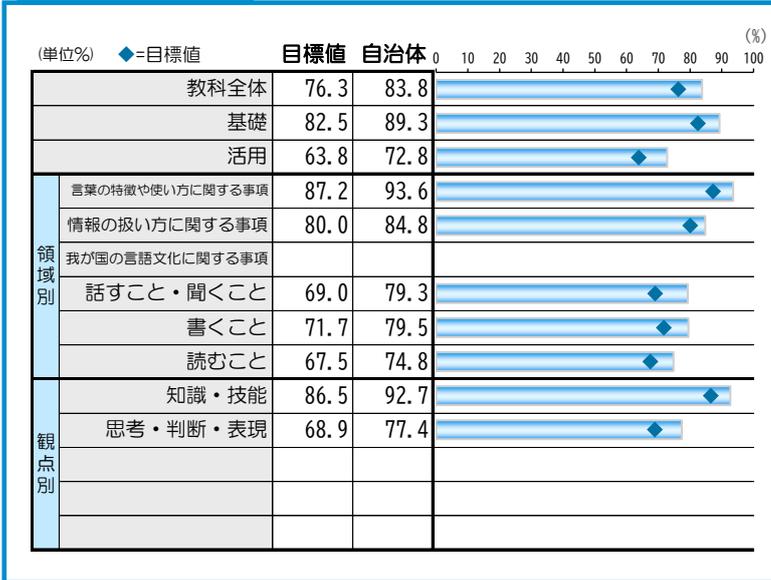
<ねらい> 20までの数の系列を理解している。

目標値 70.0% 正答率 69.8% 差 ▲ 0.2 ポイント

指導のポイント 数の大小、順序、系列などを分かりやすく表現できるものとして、数直線がある。はじめは全ての目盛りに数を入れるが、次第に2とび、5とび、10とびの目盛りだけにしていき、示された目盛りの数を頼りに、数の示されていない目盛りについても正しく読めるようにさせたい。例えば、16ならば、19より3小さい数、15より1大きい数という見方ができるようにさせることが大切である。

「思考・判断・表現」が良好である

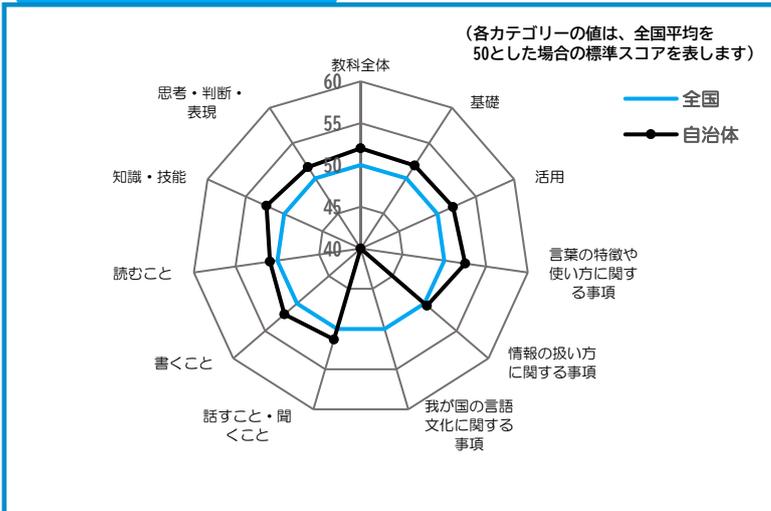
正答率一覧



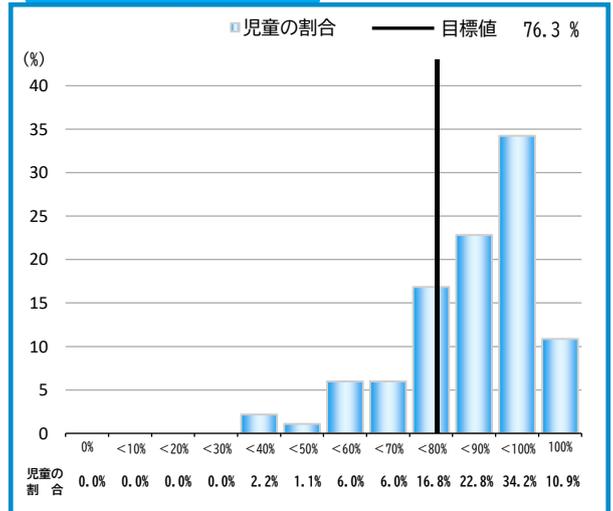
分析 コメント

- 小2国語は、教科全体の正答率が83.8%
- で、目標値を7.5ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に達している。中でも、「思考・判
- 断・表現」が77.4%で、目標値を8.5ポイ
- ント上回った。

カテゴリ間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

ことばの学しゅう

大問3(1)

<ねらい> 片仮名を正しく書いている。

目標値 85.0% 正答率 83.7% 差 ▲ 1.3 ポイント

指導のポイント 片仮名の指導に当たっては、教科書の中で片仮名が使われているところを探させ、どのような言葉で片仮名が使われているのかを理解させることが大切である。また、普段の生活の中でも片仮名を探させることで、片仮名を身近に感じさせることができる。なお、「シ」と「ツ」のように形の似ているものや、「ヤ」と「や」のように平仮名と間違えやすいものなどについては、丁寧な指導が望まれる。

文しょうを書く

大問7

<ねらい> 内容のまとまりが分かるように文章を書いている。

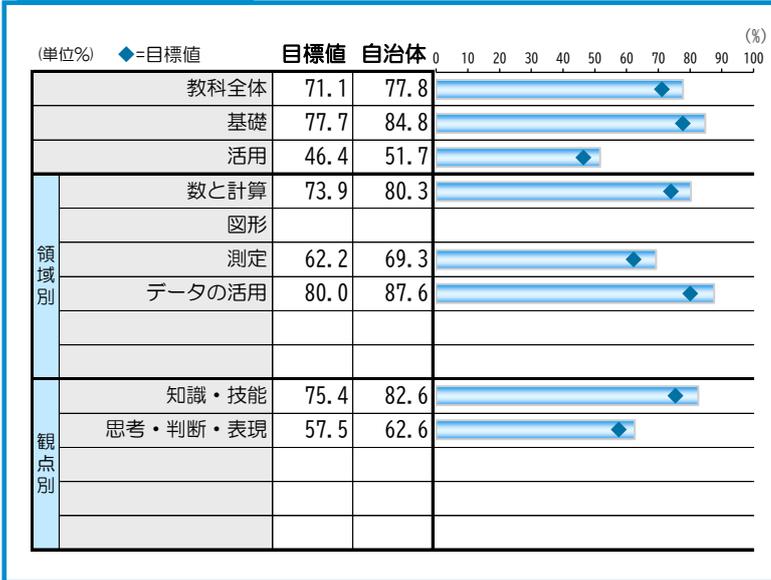
目標値 70.0% 正答率 72.3% 差 2.3 ポイント

指導のポイント 学校行事で、どのような行事が心に残っているのかが分かるように書く問題である。書く材料を集めるのが苦手な児童に対しては、記述に入る前の指導を工夫する必要がある。本問のような題材なら、どのような学校行事があったのかについて簡単にノートに書き出させて、児童と会話をする中で、書くためのヒントに気付かせることが大切である。このように書く材料を集めさせた上で、「経験とその感想」という文章の書き方を身に付けさせたい。

小2 算数

「知識・技能」が良好である

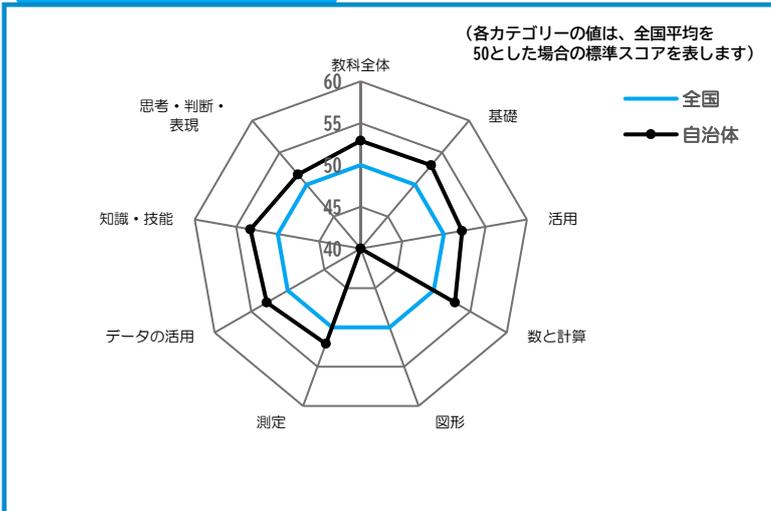
正答率一覧



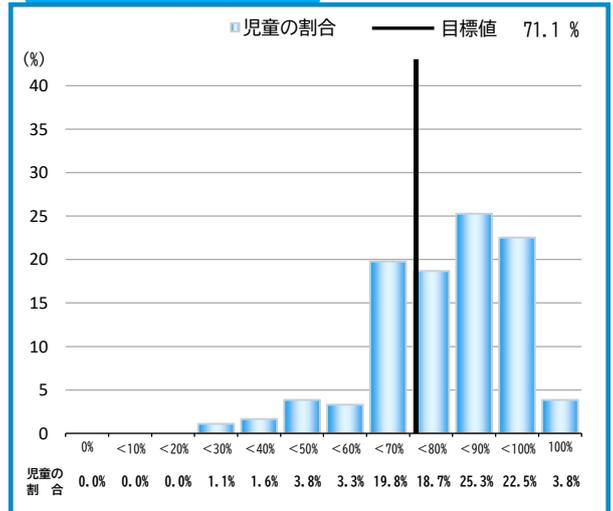
分析 コメント

- 小2算数は、教科全体の正答率が77.8%
- で、目標値を6.7ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に達している。中でも、「知識・技能」が82.6%で、目標値を7.2ポイント上
- 回った。

カテゴリ間比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

ひき算

大問14(2)

<ねらい>

条件にあてはまるものを選び、選んだ理由を説明している。

目標値 30.0% 正答率 25.3% 差 ▲ 4.7 ポイント

指導のポイント

本問では、次のような複数の考え方により、答えを求めることができる。まず、おみやげをいくら買ったかを場合に分けて求め、その中でおつりが15円になるおみやげを見いだす方法がある。式に表すと、 $30 + 70$ 、 $30 + 55$ 、 $30 + 45$ となり、この中でおつりが15円になるのは $30 + 55$ の場合である。次に、残金から考えて、買ったおみやげを見いだす方法がある。式に表すと、 $100 - 30 = 70$ 、 $70 - 15 = 55$ 。したがって、55円のおみやげである。このように考え方によって計算方法が異なることの面白さを、対話的な活動、説明する活動を通して感得できるようにすることが大切である。

1000までの数

大問1(3)

<ねらい>

数の相対的な大きさについて理解している。

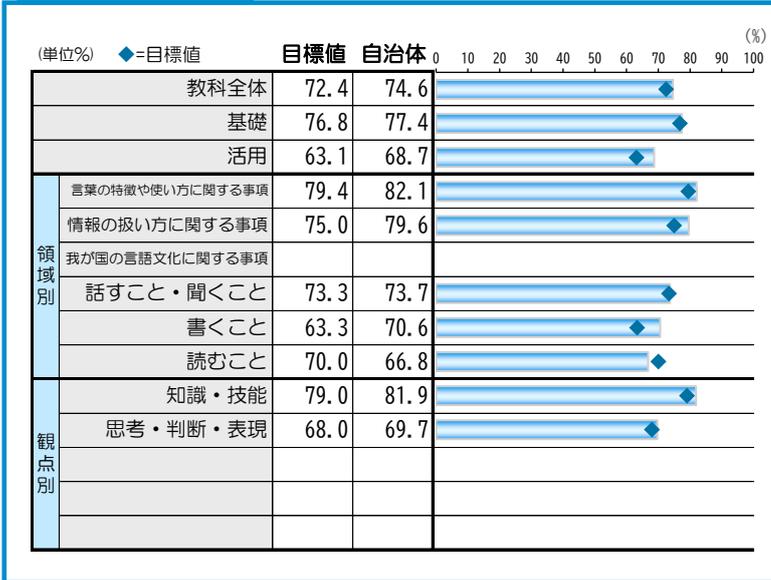
目標値 80.0% 正答率 79.1% 差 ▲ 0.9 ポイント

指導のポイント

1000は10を何個集めた数かを問う問題だが、誤答の原因としては、単位とする数の大きさを捉えられなかったことなどが考えられる。数図カードや模擬貨幣を用いるなどして、単位とする数の大きさとその単位のいくつ分であることを考えさせることが大切である。その際、単位とする数が10個集まると、位が1つ上がることを意識させるとよい。大きな数の学習では、数が大きくなればなるほど、数を相対的に見る見方が大切になってくるので、段階を踏んで指導したい。

「知識・技能」が良好である

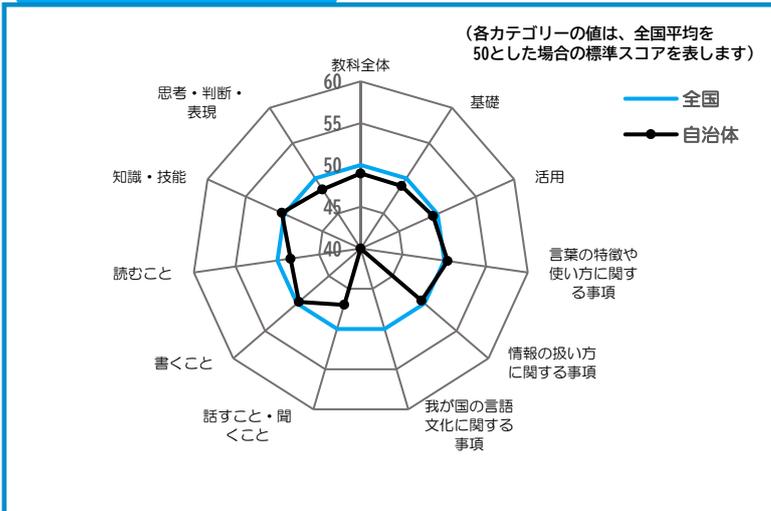
正答率一覧



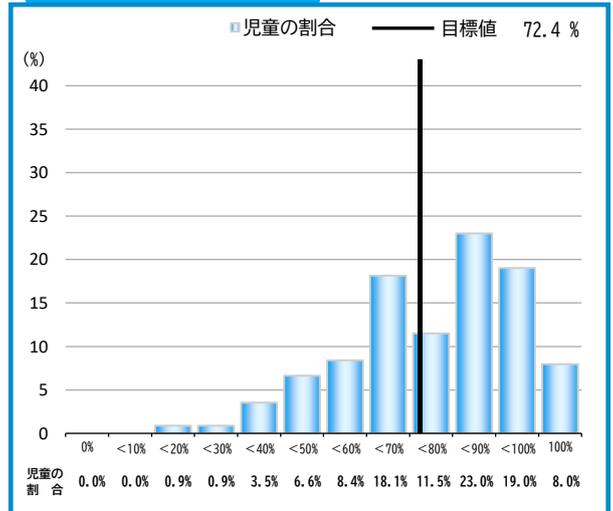
分析 コメント

- 小3国語は、教科全体の正答率が74.6%
- で、目標値を2.2ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に達している。中でも、「知識・技能」が81.9%で、目標値を2.9ポイント上
- 回った。

カテゴリ間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

話し合いの内ようを聞き取る

大問1(2)

<ねらい>

話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えている。

目標値 65.0% 正答率 57.1% 差 ▲ 7.9 ポイント

指導のポイント

話し合いの場面における、話し手の話し方の工夫を答える問題である。グループでの話し合いなどの際には、まず何について話すのか、自分の意見は何なのかを示し、その上で自分の意見の理由や根拠を明確にすることが大切である。初めに結論を述べてから、その理由や根拠を述べるという話し方は、話し手にとっては自分の意見を示しやすく、聞き手にとっても理解しやすい。こうした基本的な話し方を、きちんと習得させておきたい。

漢字を書く

大問2(2)③

<ねらい>

第2学年に配当されている漢字を正しく書いている。

目標値 80.0% 正答率 74.3% 差 ▲ 5.7 ポイント

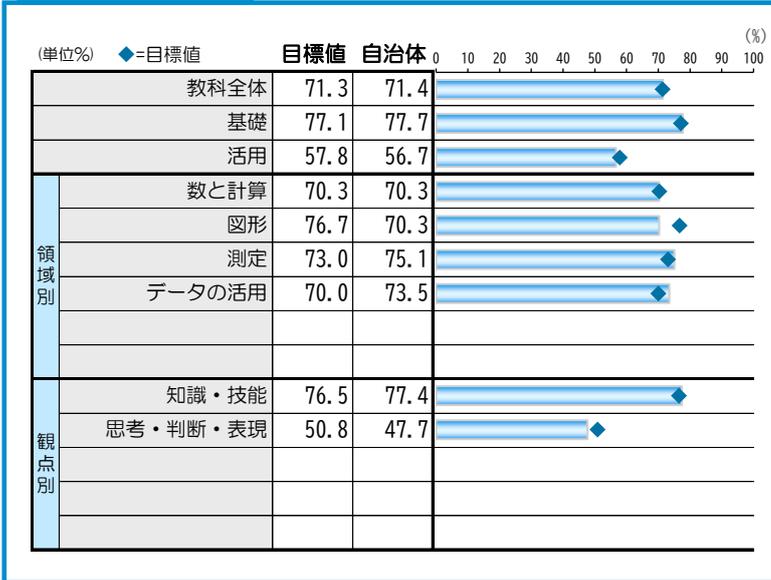
指導のポイント

漢字の書きの指導においては、新しい漢字を学習する際に、熟語作りや文作りの活動をできるだけ多く取り入れることが大切である。ゲーム形式で、身の回りのものを習った漢字を使って書かせるなど、漢字を日常的に使われる形にして習得させることが必要である。

小3 算数

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

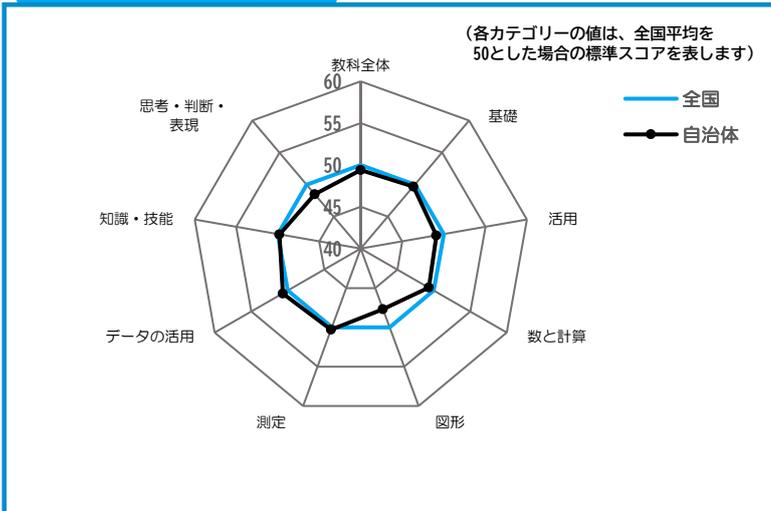
正答率一覧



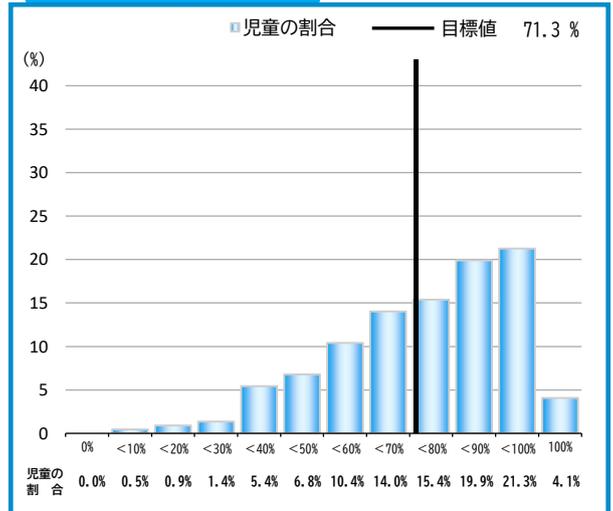
分析 コメント

- 小3算数は、教科全体の正答率が71.4%で、目標値を0.1ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、「知識・技能」が77.4%で、目標値を0.9ポイント上回った。一方、「思考・判断・表現」が47.7%で、目標値を3.1ポイント下回った。

カテゴリ間比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

円と球

大問13

<ねらい> コンパスで同じ長さを測りとることができることを理解し、長さを比べることができる。

目標値 65.0% 正答率 46.6% 差 ▲ 18.4 ポイント

指導のポイント 誤答の多くは、実際にコンパスを使わず、見た目だけで判断してしまったものと考えられる。コンパスが、円をかく道具であると同時に、長さを測り取る道具でもあるということは、円の単元で学習している。長さの学習のときにも、コンパスを使って地図上で長さを測り取り、縮尺を基にして実際の距離を求める活動を取り入れることが有効である。

わり算

大問6答え

<ねらい> 文章問題を解くために立式した除法の式から、あまりの処理をして、正しい答えを求めている。

目標値 55.0% 正答率 43.4% 差 ▲ 11.6 ポイント

指導のポイント 62cmのリボンがあって、8cmずつに切るという包含除の問題場面である。問題場面はこれまでの除法と同じで、特に意味が拡張された訳ではない。余りが出たときに、この余りをどう考えるかが焦点になる。立式して答えを求めた後、もう一度問題場面に戻って、余りをどうするか考えさせることが大切である。本問は、8cmのリボンは何本できるかを問うているので、余りは考えずにできたり本数を答える。なぜその答えになるのかを図に表したり、問題場面に戻って、何を求める問題なのかを説明したりする活動を取り入れたい。

「知識・技能」の定着に課題が残る

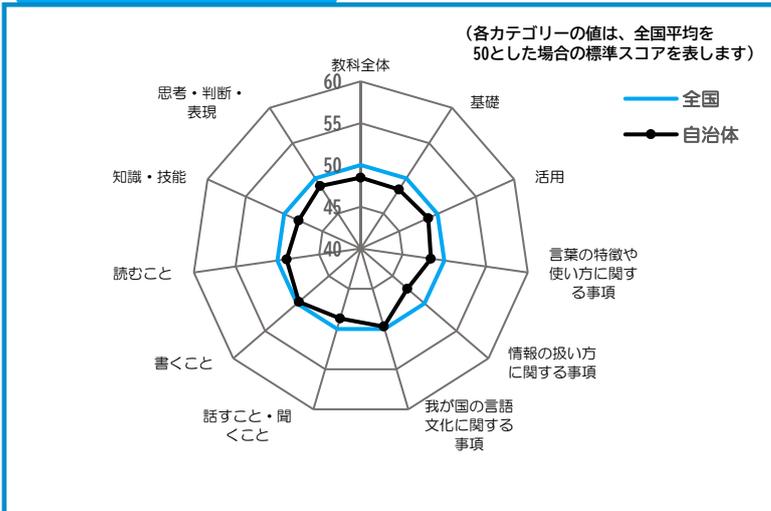
正答率一覧

		目標値	自治体	(%)
教科全体		68.8	67.3	
基礎		72.9	71.8	
活用		61.1	58.8	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.7	74.9	
	情報の扱い方に関する事項	60.0	57.2	
	我が国の言語文化に関する事項	70.0	69.8	
	話すこと・聞くこと	66.0	60.5	
	書くこと	67.5	73.2	
観点別	読むこと	61.7	58.9	
	知識・技能	74.5	72.9	
	思考・判断・表現	64.7	63.2	

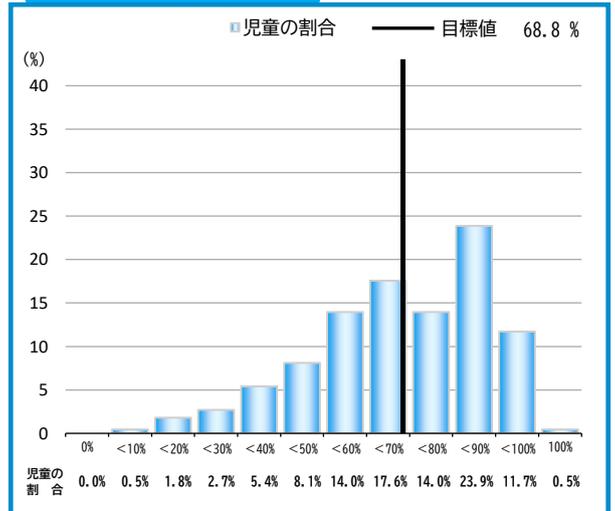
分析 コメント

- 小4国語は、教科全体の正答率が67.3%で、目標値を1.5ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「知識・技能」が72.9%で、目標値を1.6ポイント下回った。

カテゴリ間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

活動をふり返って話し合う

大問6(2)

<ねらい> 相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら話している。

目標値 40.0% 正答率 21.2% 差 ▲ 18.8 ポイント

指導のポイント 【クッキーの作り方】を丁寧に読んでいくと、ポイントの一つ目に、焼いた時にかたくなるための注意として、「生地をこねすぎない」とある。あとは、〈注意する点〉にあるように、「どの手順のときに」「何に注意すればよかったのか」という順番に当てはめて書いていけばよい。何を書くのが分かって、書き方がよく理解できないという児童も多い。授業の中で、課題を示すだけでなく、何をどのように書いたらよいのかを丁寧に指導していくことが大切である。そうした指導を通して、書き方を身に付けさせたい。

漢字を書く

大問2(2)③

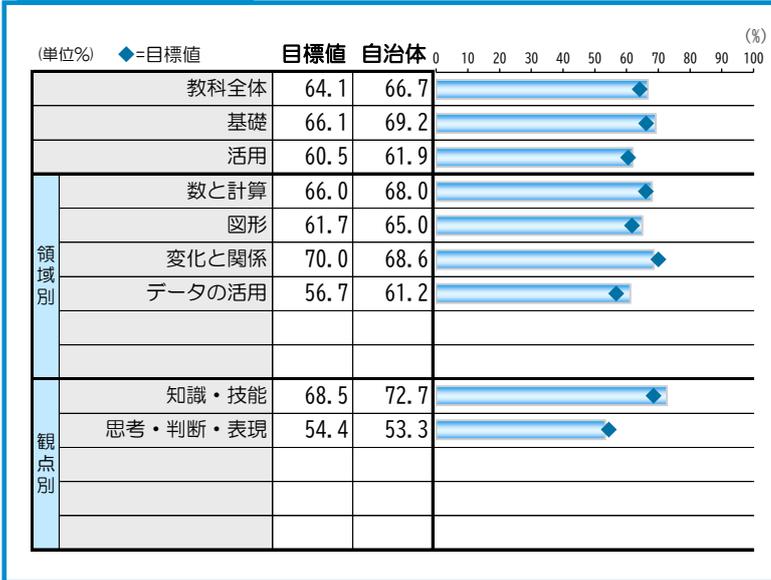
<ねらい> 第3学年に配当されている漢字を正しく書いている。

目標値 80.0% 正答率 65.3% 差 ▲ 14.7 ポイント

指導のポイント 送り仮名を間違えやすい漢字については、最初に誤って記憶してしまうとそのままになってしまう傾向が強い。分からない漢字があれば、その都度辞書などで確認させ、正しい漢字の知識を身に付けさせたい。送り仮名を間違えやすい漢字をまとめて取り上げたり、クイズ形式で出題したりして、年間を通して正しい理解の定着を図ることが大切である。

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

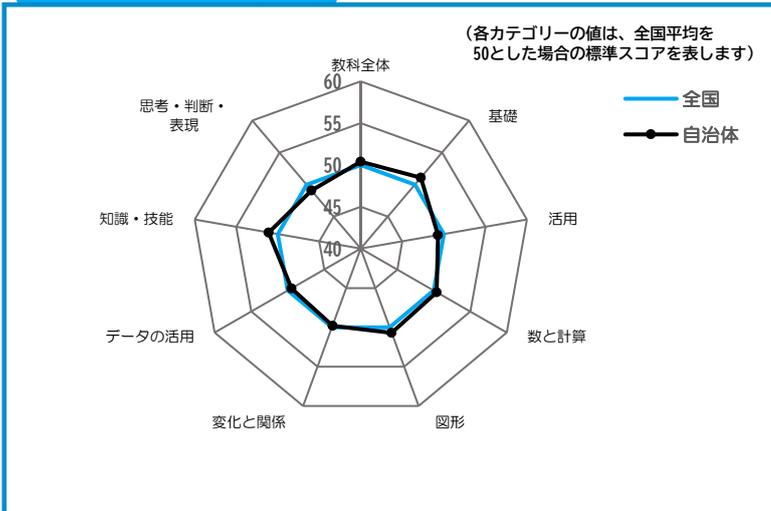
正答率一覧



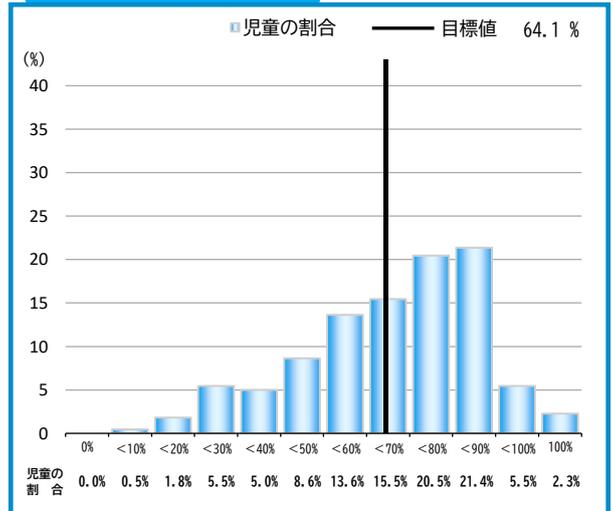
分析 コメント

- 小4算数は、教科全体の正答率が66.7%で、目標値を2.6ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、「知識・技能」が72.7%で、目標値を4.2ポイント上回った。一方、「思考・判断・表現」が53.3%で、目標値を1.1ポイント下回った。

カテゴリ間比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

計算のきまり

大問10

<ねらい> 分配法則を用いて計算している。

目標値 55.0% 正答率 38.2% 差 ▲ 16.8 ポイント

指導のポイント 空欄に当てはまる式を選択させることにより、分配法則を用いた計算の仕方の理解を問う問題である。分配法則の意味については、長方形の面積を求めるなどの具体的な事象における考察を通して、しっかりと理解させたい。また、分配法則を使うことで、速く、簡単に、正確に計算できるよさを、具体的な計算を行う中で計算過程を比較させることにより、実感させることが大切である。

億と兆・がい数の表し方

大問3(1)

<ねらい> 上から2けたの概数の表し方を理解している。

目標値 80.0% 正答率 71.8% 差 ▲ 8.2 ポイント

指導のポイント 本問では、どの位を処理したらよいか判断できず、つまずく児童もいる。87756を四捨五入して88000(概数)にするとき、次の3種類の言い方がある。①上から2けたの概数にする、②百の位を四捨五入する、③四捨五入して千の位までの概数にする。いずれの場合も、百の位を処理することになると判断できることが大切である。

「思考・判断・表現」が良好である

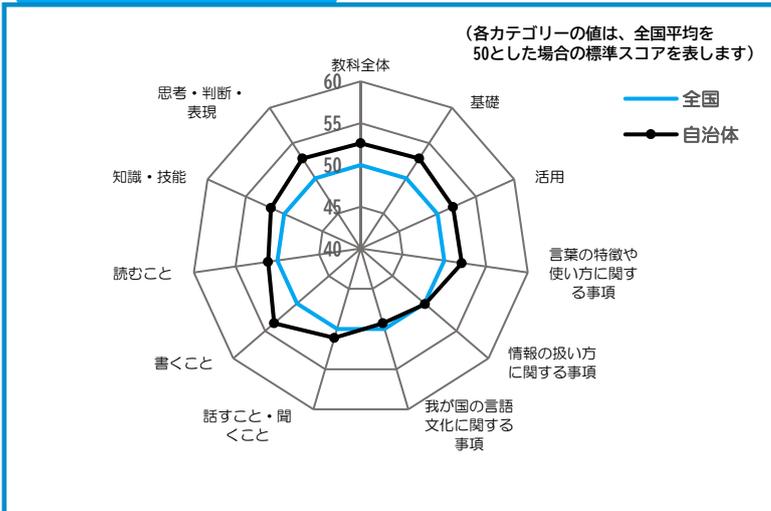
正答率一覧

		目標値	自治体	(%)
教科全体		66.9	74.1	74.1
基礎		70.6	77.3	77.3
活用		58.8	67.0	67.0
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.5	80.8	80.8
	情報の扱い方に関する事項	65.0	58.6	58.6
	我が国の言語文化に関する事項	50.0	51.1	51.1
	話すこと・聞くこと	73.3	83.4	83.4
	書くこと	62.0	73.7	73.7
観点別	読むこと	61.7	65.3	65.3
	知識・技能	70.0	76.5	76.5
	思考・判断・表現	64.3	72.2	72.2

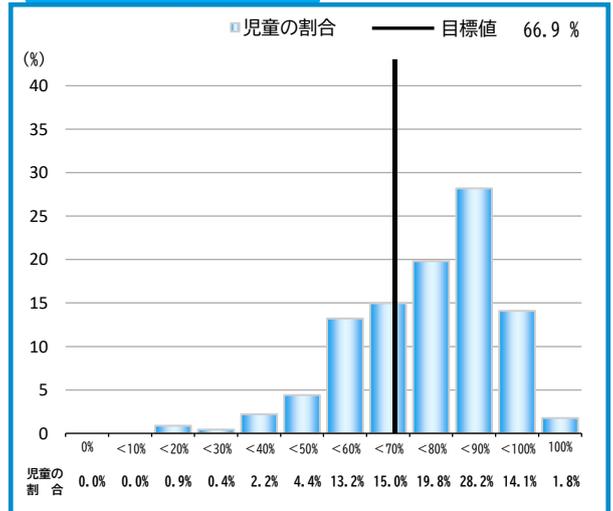
分析 コメント

- 小5国語は、教科全体の正答率が74.1%
- で、目標値を7.2ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に達している。中でも、「思考・判
- 断・表現」が72.2%で、目標値を7.9ポイ
- ント上回った。

カテゴリ間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

学級新聞の記事を書く

大問6(1)

<ねらい> 情報と情報との関係について理解している。

目標値 65.0% 正答率 58.6% 差 ▲ 6.4 ポイント

指導のポイント 傍線①には、パンに説明のカードが添えられているという事実が、傍線②には、それに対する書き手の考えが述べられている。したがって、傍線①と傍線②は、事実とそれに対する考えという関係になっている。こうした情報と情報との関係について把握するために、事実と考えだけでなく、原因と結果、意見と根拠など、情報と情報との関係の代表的なものについて理解しておきたい。情報と情報との関係について、読むときや書くときに意識していない児童も多い。情報の意味とその関係について学習する機会を増やしていくことで、情報どうしの関係を意識させていくとよい。

物語の内容を読み取る

大問4(1)

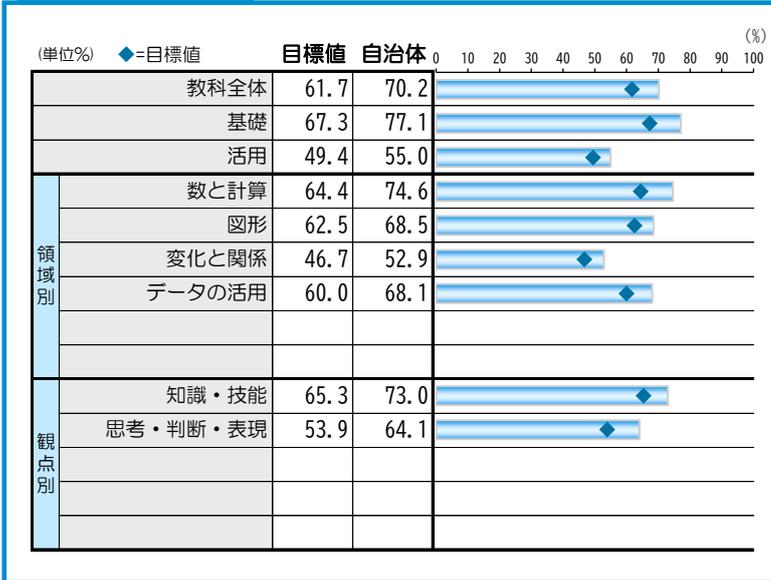
<ねらい> 登場人物の心情について、描写を基に捉えている。

目標値 60.0% 正答率 55.1% 差 ▲ 4.9 ポイント

指導のポイント 文学的な文章の読み取りの問題では、児童はどうしても傍線部の周辺だけに注目してしまい、場面の様子や登場人物の人間関係など、文章全体の流れをしっかりと理解しないまま解こうとする傾向がある。まずは、文章全体としてどのような話なのかを理解させ、その上で細部について考えるような読み方を身に付けさせる必要がある。授業においては、文章の全体と細部の関係を意識して指導することが大切である。

「思考・判断・表現」が良好である

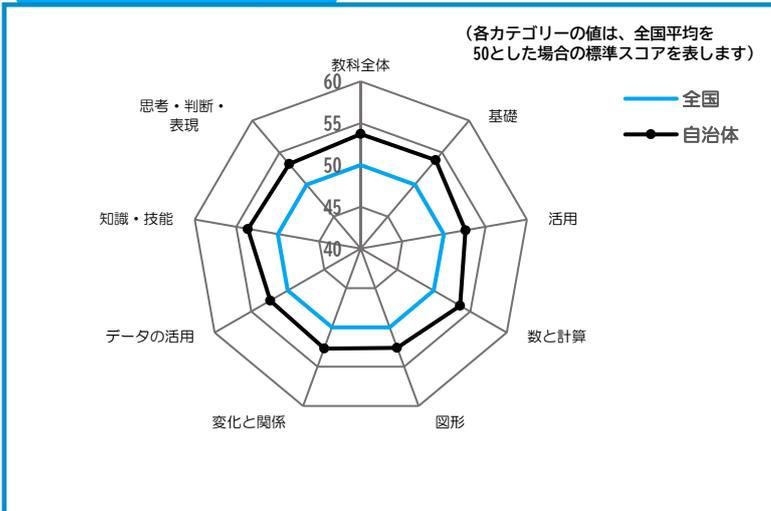
正答率一覧



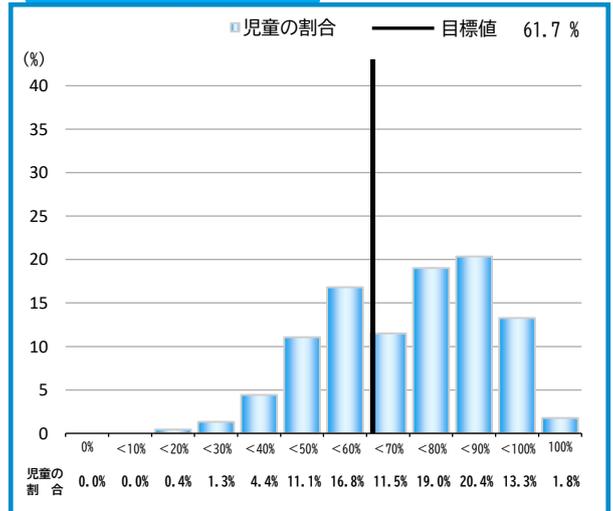
分析 コメント

- 小5算数は、教科全体の正答率が70.2%
- で、目標値を8.5ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に達している。中でも、「思考・判
- 断・表現」が64.1%で、目標値を10.2ポイ
- ント上回った。

カテゴリ間比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

単位量あたりの大きさ、比例

大問15(2)

<ねらい> 人口密度と面積から、ある町の人口を求めることができる。

目標値 30.0% 正答率 10.6% 差 ▲ 19.4 ポイント

指導のポイント 人口密度を求める公式は人口÷面積であるが、本問では、公式に頼ることなく、面積と人口が比例関係にあることを利用し、数直線に表して答えを求められるようにしたい。比例関係に着目すれば、人口密度だけでなく、速さも同じように求められることのよさが分かるように指導することが大切である。なお、人口密度については、実際は人が住めない山の中なども含めて考えられていることを前提にしていることにも触れておくとよい。

図形の角

大問16(3)

<ねらい> しきつめ模様から六角形を見出し、その六角形の角の大きさの和の求め方を説明している。

目標値 30.0% 正答率 22.6% 差 ▲ 7.4 ポイント

指導のポイント 本問では、もねさんが求めた四角形の4つの角の大きさの和の求め方を解釈し、その方法と同じように六角形の6つの角の大きさの和を求める。もねさんは、四角形が3つの三角形でできていることから 180×3 とし、四角形の4つの角に該当しない部分の角の大きさをひいて、4つの角の大きさの和を求めている。同じように、六角形は6つの三角形でできていることから 180×6 とし、六角形の6つの角に該当しない角の大きさをひけばよい。説明する活動に当たっては、説明の仕方に重点を置きがちだが、説明を聞いている児童がどのように解釈しているかを評価することも大切である。

「思考・判断・表現」が良好である

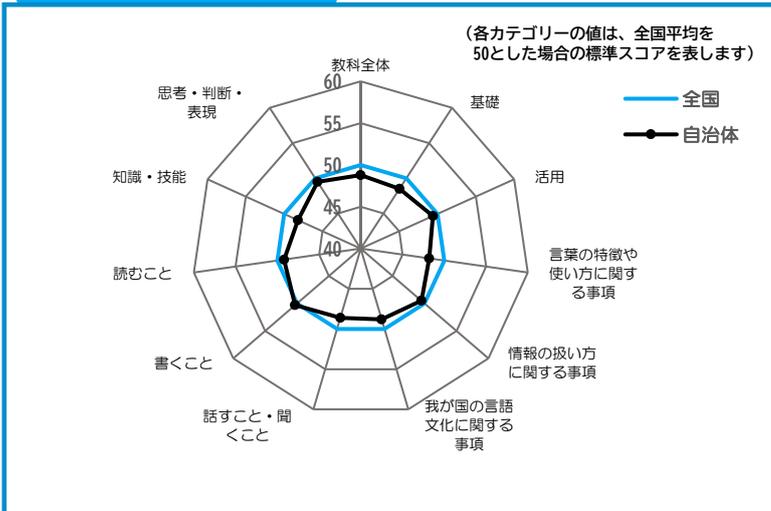
正答率一覧

		目標値	自治体	(%)
教科全体		66.5	68.5	
基礎		68.8	70.0	
活用		62.2	65.6	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	64.0	64.4	
	情報の扱い方に関する事項	70.0	72.0	
	我が国の言語文化に関する事項	60.0	60.3	
	話すこと・聞くこと	81.7	90.0	
	書くこと	64.0	69.2	
観点別	読むこと	65.8	64.8	
	知識・技能	64.2	64.7	
	思考・判断・表現	68.6	71.8	

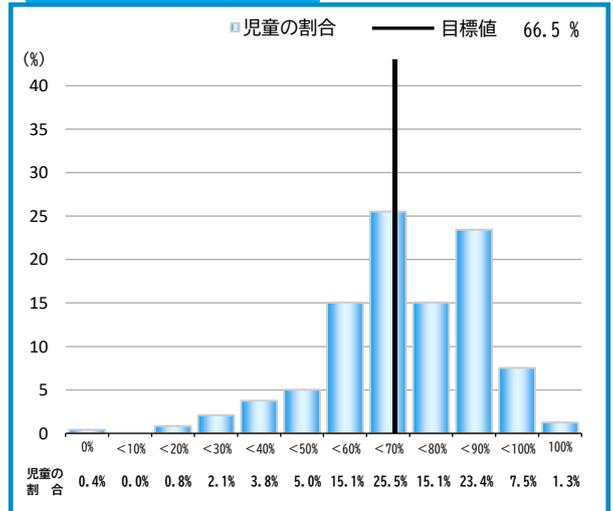
分析 コメント

- 小6国語は、教科全体の正答率が68.5%で、目標値を2.0ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「思考・判断・表現」が71.8%で、目標値を3.2ポイント上回った。

カテゴリ間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

漢字を書く

大問2(2)②

<ねらい>

第5学年に配当されている漢字を正しく書いている。

目標値 45.0% 正答率 30.5% 差 ▲ 14.5 ポイント

指導のポイント

学校では、漢字練習や小テストを繰り返しているが、漢字が定着するまでの学習時間には個人差がある。練習の方法としては、同じ漢字を1ページ書くよりも、書き順や送り仮名を覚えるために1行、熟語として2行、残りは文の中で漢字を使うなどの練習をする方が望ましい。本問のように、短文を書く中で漢字を書けるようにする練習は、家庭学習として定着させたい。学校では、さまざまな教科の文章を書く活動で、分からない漢字はすぐに辞書で調べさせるなど、漢字を使って文章を書く習慣を身に付けさせることが大切である。

レポートを書く

大問6(2)

<ねらい>

文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文章を整えている。

目標値 40.0% 正答率 28.9% 差 ▲ 11.1 ポイント

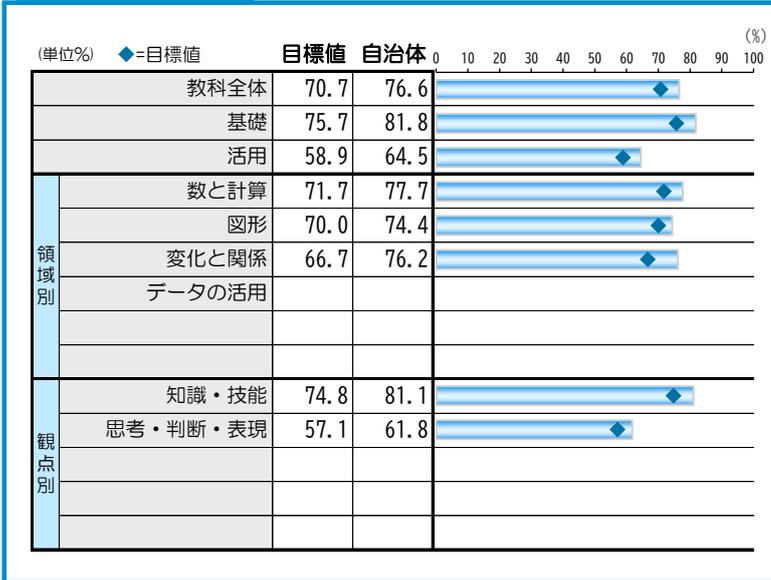
指導のポイント

本問で解答するに当たっては、まず必要な情報を選択する必要がある。(〈注意する点〉)に書かれている条件を基に、アマガエルについては「調べて分かったこと」の①、ネコについては②の中の必要な情報に下線を引いたり、○で囲んだりするなどで印を付けておく。次に、それらの情報を指定の字数でまとめるようにする。その際に大事なことは、空欄に当てはまるように適切に書くということである。児童の中には、必要な情報は理解できても、書き方が分からない者もいる。こうした書き方の指導について、もっと重視して学習を工夫していくようにしたい。

小6 算数

「知識・技能」が良好である

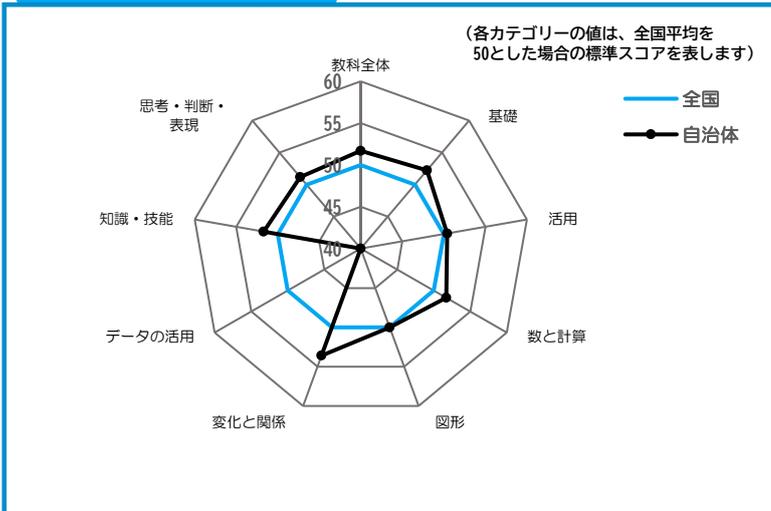
正答率一覧



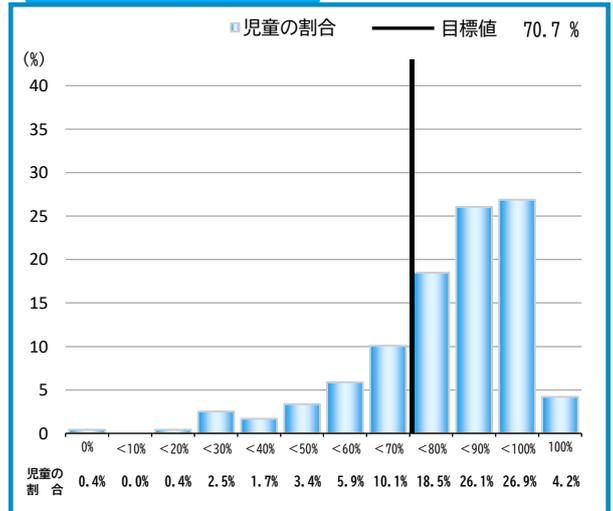
分析 コメント

- 小6算数は、教科全体の正答率が76.6%
- で、目標値を5.9ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に達している。中でも、「知識・技能」が81.1%で、目標値を6.3ポイント上
- 回った。

カテゴリ間比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

拡大図と縮図

大問14(2)

<ねらい>

縮図を使って地面から2階のベランダの手すりまでの実際の高さを求め、その求め方を式を使って説明している。

目標値 30.0% 正答率 25.2% 差 ▲ 4.8 ポイント

指導のポイント

拡大図や縮図は日常生活にも活用されており、どのように活用できるかを探ることが大切である。説明に当たっては、対応する角の大きさが等しく、対応する辺の比がどこでも一定であることを利用していることを示すことが重要である。本問では、1/200の縮尺を根拠にして高さを求めている点がポイントになる。また、そうたさんの身長1.4mをたすことに理解が及ばない誤答もあるので注意を要する。この学習から発展し、インターネット上の地図を活用して自分の学校の面積を求めさせるなど、日常生活に活用できるよさを味わわせたい。

分数のかけ算・わり算

大問5(2)

<ねらい>

分数の除法の文章問題にあった式を選ぶことができる。

目標値 55.0% 正答率 50.8% 差 ▲ 4.2 ポイント

指導のポイント

分数の除法の文章問題を解くための式として正しいものを選ぶ問題である。ホース1m当たりの重さを求める問題だが、除数と被除数を取り違えた誤答があった。誤答の原因としては、問題文の意味を理解せず、問題文に出てきた順番でわってしまったことなどが考えられる。分数の除法においては、小数の除法における学習経験を想起させて関連付けながら指導し、数直線に表して考察しようとする態度や、「2Lの重さが4kg」というように分数を簡単な整数に置き換えて考えようとする態度を育むことが大切である。